キャンパスタワー

第二次事業完成による矢巾キャンパス

理事長式辞

東西の講義実習棟、研究棟につながるキャンパスモール

大堀記念講堂

岩手医科大学総合移転整備計画　第二次事業新築工事落成式

式辞

学校法人　岩手医科大学
理事長　大堀　勉

本日は、岩手医科大学総合移転整備計画第二次事業の新築工事落成式挙行にあたりまして、かくも多数の御来賓の皆様に、年度末のご多用のところ、また遠方から、まげてご臨席を賜り、誠に有り難く衷心より御礼を申し上げます。

平成二十一年十二月の着工から一年三ヵ月、前回よりも更に短い工期の中、また、年末来の記録的な大雪の中、無事故無災害で見事に完遂されたことは、本事業の設計監理担当の日建設計、建築工事担当の清水建設・鹿島建設共同企業体、機械設備工事担当の朝日工業社・第一工業共同企業体、電気設備工事担当の興和電設・岩舘電気・ユアテック共同企業体始め、工事関係者の皆様の多大なるご尽力によるものと衷心より感謝申し上げる次第であります。

近隣の皆様方には、工事期間中、何かとご不便、ご迷惑をおかけいたしましたことと拝察いたします。この場をお借りいたしまして深くお詫び申し上げますとともに、矢巾キャンパスの開設来、暖かく見守っていただきましたことに心から御礼を申し上げます。

また、本事業推進にあたり、特段のご高配を賜りました岩手県並びに矢巾町の関係各位、本学同窓会、ご父兄、教職員等多くの皆様から絶大なるご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げる次第であります。

本学は、明治三十年、三田俊次郎先生が医療の貧困を憂い、私財を投じて設立された私立岩手病院に併設された医学講習所、次いで明治三十四年に認可された私立岩手医学校を前身としております。建学以来、本学は、盛岡市の中心部、内丸地区にキャンパスを構え、一万有余名を数える医師、歯科医師を養成するとともに、地域の皆様の生命と健康を守ることに最大限の力を尽くしてまいりました。

しかしながら、内丸キャンパスは、約八千坪の敷地内に全ての教育・研究・医療の各施設を網羅しており、学びの場、診療の場としては狭隘で、かつ老朽化が著しく、大学の一層の発展と地域の皆様の利便性を考慮して、矢巾町への大学及び病院の総合移転という壮大な計画を策定し、新天地に踏み出すこととしたのであります。

第一次事業として、悲願でありました広大な土地を矢巾地区に取得し、平成十九年、矢巾キャンパスとして開設、併せて薬学部を新設することができました。

そしてこの度、第二次事業として、矢巾キャンパスへの医学部・歯学部の基礎講座・共同研究部門の移転を決定し、研究棟・講義実習棟、動物研究センター、世界で僅か数台、本邦でも二台目の最先端七テスラＭＲＩを導入した超高磁場先端ＭＲＩ研究所、学生の部活動の拠点施設である琢誠館、大学の本部棟、キャンパスのシンボルとなるキャンパスタワーを新築いたしました。

第二次事業の完成により、矢巾キャンパスは本学の「知の拠点」として、教育・研究活動の中心となりますが、医学部・歯学部・薬学部の医療系三学部が同一キャンパスに存立するのは、わが国初のことであります。本学は名実ともに医療系総合大学として、三学部の密接な連携の下、新時代の医療人の育成と地域医療の充実に一層邁進してまいります。

本学の総合移転整備事業は、第二次事業の完成により一つの区切りを迎えました。今後は、矢巾キャンパスに隣接する藤沢地区、約五万六千坪の取得用地に附属病院の移転整備を進めてまいりますが、全ての事業完遂には、なお多日を要しますので、皆様のなお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご厚情に幾重にも感謝申し上げますとともに、ご臨席の皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念申し上げまして、甚だ簡単ではございますが、式辞といたします。

岩手医科大学総合移転整備計画　第二次事業新築工事落成式

挨拶

岩手医科大学
学長　小川　彰

本日は、皆様におかれましては、ご多用中にもかかわらず、岩手医科大学総合移転整備計画第二次事業の新築工事落成式に、かくも多数のご臨席を賜り、誠に有り難く衷心より御礼を申し上げます。

着工から一年三ヵ月、また、記録的な大雪の中、工期に遅れることなく、無事故無災害で見事に完遂された工事関係者の皆様には、深く感謝申し上げます。

また、岩手県並びに矢巾町の関係各位、関係機関の皆様始め、多くの皆様から絶大なるご支援を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。

本学は、建学以来、盛岡市の中心部、内丸地区にあって、多くの方々のご支援をいただきながら、「誠の人間」たる医師、歯科医師の養成と地域医療の充実に努めてまいりました。

しかし、内丸キャンパスは狭隘で老朽化が進み、最新の生命科学に対応して、最先端の医療設備・機器の整備を進めることは困難な状況となっておりました。

そのような折、ご当地矢巾町の温かいご理解を賜り、平成十五年一月、徳田地区の地権者の皆様から五万五千坪の移転用地をお譲りいただき、大学及び附属病院の移転という壮大な事業に着手することができました。平成十九年三月二十八日に矢巾キャンパスを開設、薬学部を新設し、わが国でも数少ない医療系三学部を揃えた総合大学に生まれ変わったのであります。

その後、医師不足が叫ばれる中、国政が転換し、それまで抑制が続いていた医学部の入学定員が緩和されることになりました。そのため本学医学部の入学定員は、平成十九年度までは八十名でありましたが、平成二十年度には九十名、翌平成二十一年度には二十名増となって百十名となり、さらに平成二十二年度には十五名増となりまして、現在は百二十五名となっております。

皆様ご承知のとおり狭隘であります内丸キャンパスの講義室、実習室は、このような急激な定員増に対応して拡張を行うことは極めて困難であり、矢巾キャンパスへの医学部・歯学部の基礎講座の移転を早め、第二次事業として定員増に対応した講義・実習棟、研究棟を新築することといたしました。併せて、共同研究部門の移転、動物研究センターの設置、世界で数台しか稼働していない最新の七テスラMRIを導入した超高磁場先端MRI研究所を設置、研究力のさらなる充実を図ることといたしました。

この度の第二次事業の完成により、矢巾キャンパスが本学の教育研究活動の拠点となる訳でありますが、医学部・歯学部・薬学部を有する大学は、国立大学に数校、私立大学では本学のほか二校しかなく、この三学部を一つのキャンパスに揃えた大学は我が国で初めてであり、他に類がありません。本学は、医系総合大学として、学部間の連携を強め、垣根を越えた教育・研究を進めてまいりたいと考えております。

その一つが、医学部・歯学部の基礎講座の統合であります。学問領域の隣接する講座を統合し、学部横断的な連携協力体制を構築し、枠に縛られない柔軟な研究と効率的な教育を推進しようとするものです。これは世界的にも例のないユニークな試みであり、今後の医学・歯学教育の試金石となり得るものであります。

薬学部が学部の完成を迎える平成二十五年度には、さらに薬学部を含めた講座統合を進めるとともに、将来的には、医歯薬統合大学院として発展的に改組したいと考えております。

今後、本学の矢巾キャンパスは、世界に誇る知の拠点として、ますます発展していくものと確信しております。本日御集りの皆様、そして岩手県民のご期待にお応えできますよう将来を担う多くの有為な人材を輩出してまいりますことを、ここにお誓いいたします。

最後になりましたが、ご臨席の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、甚だ簡単ではございますが、挨拶といたします。